

組織の活性化のために

磐田地区団委員長セミナー（6. 11）

リユニオン 2011（6. 18）にて

※ 組織の衰退によって困るのは、スカウト教育で目指した青少年が育たないことである。

1 子どもたちの実態を直視する

子どもの成長においても、今日の子どもの実態をみても昔と変わらない子どもらしい姿は当然あるだろう。だがこれほどの社会構造の変化に、子どもたちの生き方、実態が昔と全く同じとは考えられない。現代っ子の気質は、変わってきているのである。

わたしたちは、今、目前の子どもたちを直視してその特質を把握しなくてはならないのではないか。

セミナーの折、「ジャンボリーに参加者が減った。」「参加したがらなくなった」と語られた。その時、参加したがらなくなったのはいつからだろうか、何故なのかと思った。そのことを考えずにきたなと思った。

深谷先生が、「巣ごもりの子」と指摘し、その後も子どもたちの「孤立化・無気力化」を報告されて30年あまりになるのではないか。そうした世代が成長して、今や親子で組織離れが進んでいるのではないか。

子どもたちの組織離れは、スカウト活動だけではない。

2 子どもの世界にボスはいない

スカウティングでは「班制度」は欠かせない不易の理念だ。しかし、わたしたちが語ってきた子どもの集団にいるはずのボスは、どこにも存在しない。仲間を集めて、遊びをリードし、ルールを教え、支配した仲間の面倒を見るボスの姿はない。子どもたちは、そうした力を望まないし、責任を問われることを好まない。

このNOTEのNO31で、メモしたように「新しいボス猿は、先のボス猿と同じ支配の仕方をする」という。動物園で子どもを産んだ親が子どもを育てないともいう。過去に見聞した経験が、体験が自らの生き方にいかされるのだろう。

男らしい父親に育てられない男の子が、男らしく育てないということと同じことだ。

班として成立しないグループで、過ごしたスカウトが急に立派な班長に育てない道理ではないか。この場合、隊長がまず班長のあり方を示さねばならないだろう。

3 知ってもらわねばならない

今になって、「ボーイスカウトに入れるのは金持ちの子だ」という人はいないだろう。しかし、「特別な人が入るのだろう」と感じている人は居るかもしれない。活動内容にしても野球やサッカーでなにをやるかはみんな何となく分かっている、子どももやってみたくい

うかの判断はつけやすいし、親もよく分かっているだろう。

スポーツは、勝敗がしっかりしているので結果が分かりやすい。スカウトは、外見は制服着用で特徴はあるが、実際は何をして、何を望んでいるのかさっぱり分かっては居ないのではないか。

また、大きな課題は、それを理解してもらう機会がないことである。新しいことに興味をもちチャレンジしようとしにくい気質の子どもたちの目、関心をこちらに向けてもらうすべを見つけ出さねばならないだろう。

PRの内容についてもよく検討し、場と時間、相手に応じて説得する原稿を、関係者は持っていたいものである。

目指す人間像、教育方法、そしてメリットも分かりやすく説明したいものである。

いまひとつ、親の願い、期待もつかんでおきたいものだ。

4 保護者とスカウターとの人間関係を蜜に（車の両輪のように）

かつてわたしは隊長として「子どもが活動するのであって、親は出てこなくてよい」と話したし、それでよしとしていた。しかし、CS隊ではDLとして協力していただかなくてはならないので、どうしても親の都合が影響することとなった。

私の在職中、日曜日などに部活動の応援に出向くと、そこにかんりの父兄がいて、声を掛けられることが多かった。子どもたちのお父さんやお母さんが、交代で当番制で球場や体育館に出かけ、子どもの活躍を応援したり、面倒をみたりしているのであった。どういう経過でそのような段取りになったのかよくわからないが、折角の休日を子どもの部活動のためにつきあっているのである。子どものためとはいえ、大変な暇さいなのである。

そんな場面に出会って、このことが、親子のコミュニケーションに役立っていると思うようになった。親子で共通の時と場、そして話題を持つことができるメリットと考えたのである。

スカウト運動でも、訓練の前後、ミーティングなど保護者との懇談の機会を作って相互に人間関係を深めていきたいものである。

保護者の言葉こそ最高のPRとなると思う。

5 すべてのスカウターは教育者だ

1997年にだされた「21世紀の夜明けにあたっての声明」にいうように、スカウト運動は、教育であって、レクリエーションではない。その使命声明を熟慮して、志としたい。

団委員も対指導者も、みな子どもたちを育てる教育者なのだ。預かったスカウトの成長を将来を見据えて手助けしたいものだ。

山鹿素行は、「師は志なり」と書いている。そして「志はただ人たるの道を尽くすことである」と言っている。